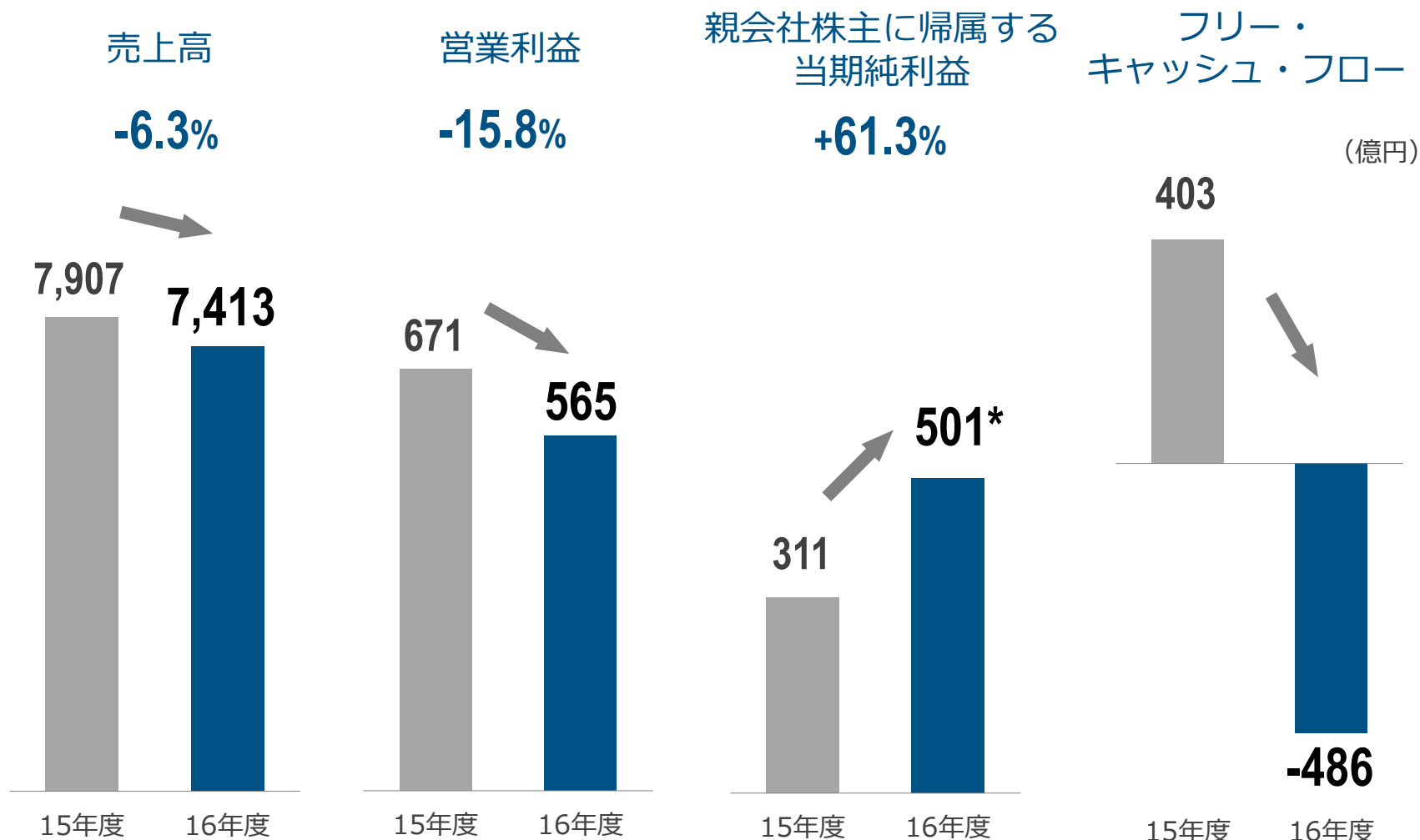

2017年3月期 決算 及び
2018年3月期 業績見通し
説明資料

帝人株式会社
2017年5月9日

2017年3月期 決算概況

年度累計 (前期比)



*これまでの過去最高益：341億円 (2006年度)

◆ 経営成績 (億円)	15年度	16年度	差異
売上高	7,907	7,413	-495
営業利益	671	565	-106
<営業利益率>	8.5%	7.6%	-0.9%
営業外損益	-68	-6	+62
経常利益	603	559	-44
特別損益	-147	-220	-73
税金等調整前 当期純利益	456	339	-117
法人税等	164	-175	-338
非支配株主に帰属する 当期純利益	-19	13	+31
親会社株主に帰属する 当期純利益	311	501	+190
1株当たり 当期純利益 *1 (円)	158.1	254.9	+96.8
EBITDA *2	1,060	958	-102
設備投資 *3	383	462	+79
減価償却費	389	393	+4
研究開発費	333	354	+21
フリー・キャッシュ・フロー	403	-486	-889

当期利益は過去最高益計上、
米国在宅医療事業からの撤退決定に
伴う税金費用減少もあり増益幅が拡大

■ 売上高 減収

各事業の販売は総じて堅調に推移するも、
年度前半の円高影響と、樹脂事業等の構造改革
に伴う生産体制適正化の影響で減収

■ 営業利益・経常利益 減益

既存事業の成長と構造改革により
収益力は着実に改善するも、
為替影響や新薬導入費用により減益

■ 純利益 大幅増益

特別損失増を税金費用の減少が上回り増益寄与

◇ P L 換算レート	15年度	16年度
円/米ドル	120	108
円/ユーロ	133	119
米ドル/ユーロ	1.10	1.10

*1：2016年10月1日付の株式併合に伴い、
前年度期首に株式併合が行われたと仮定して算定

*2：EBITDA（営業利益＋減価償却費）にて算出

*3：設備投資には無形固定資産を含む

◆ 営業外損益

(億円)	15年度	16年度	差異
受取利息	7	6	-0
受取配当金	17	19	+2
持分法による投資利益	—	21	+21
投資事業組合運用益	3	11	+8
雑収入	11	8	-3
営業外収益 計	38	65	+27
支払利息	24	22	-2
持分法による投資損失	29	—	-29
為替差損	9	17	+8
デリバティブ評価損	13	5	-7
寄付金	9	7	-1
雑損失	22	18	-3
営業外費用 計	106	70	-35
営業外損益 計	-68	-6	+62

◆ 特別損益

(億円)	15年度	16年度	差異
固定資産売却益	3	3	+0
減損損失戻入益	33	1	-32
事業構造改善 引当金戻入益	—	8	+8
その他	10	11	+1
特別利益 計	45	22	-23
固定資産除売却損	29	48	+19
減損損失	76	14	-62
投資有価証券評価損	6	0	-5
事業構造改善費用	55	163	+108
その他	28	17	-10
特別損失 計	193	242	+50
特別損益 計	-147	-220	-73

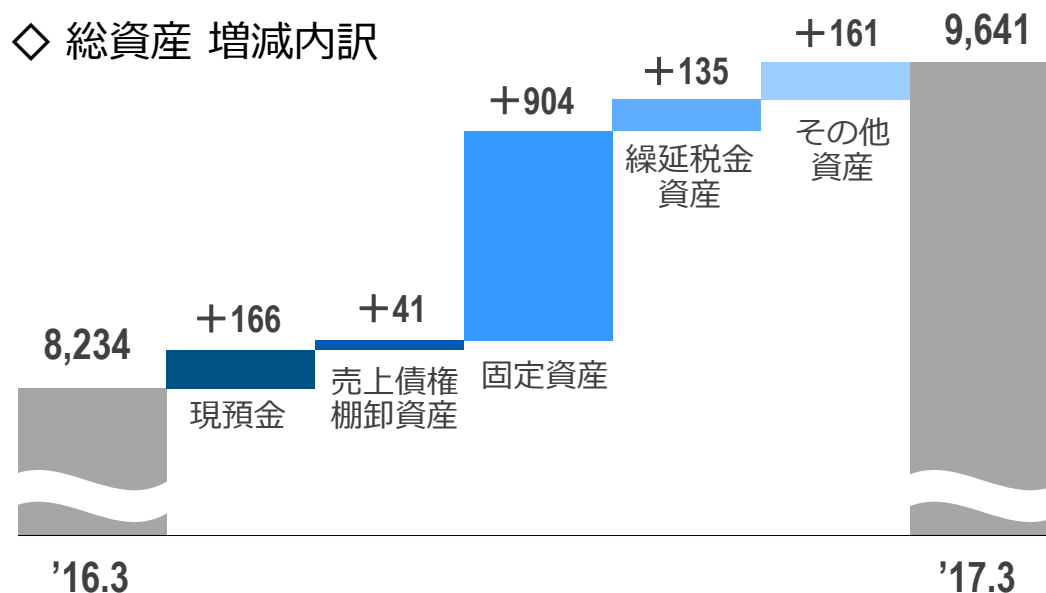
◆ 財政状態

(億円)	16年 3月末	17年 3月末	差異	内 為替 換算影響
総資産	8,234	9,641	+1,406	-95
自己資本	3,001	3,384	+383	-98
有利子負債	3,033	3,762	+729	-7
D/Eレシオ	1.01	1.11	+0.10	
自己資本比率	36.4%	35.1%	-1.3%	

◆ キャッシュ・フローの状況

(億円)	15年度	16年度	差異
営業活動	806	790	-16
投資活動	-403	-1,277	-873
フリー・キャッシュ・フロー	403	-486	-889
財務活動他	-99	652	+751
現金及び 現金同等物増減	304	166	-138

◇ 総資産 増減内訳



◇ BS換算レート

	16年 3月末	17年 3月末
円/米ドル	113	112
円/ユーロ	128	120
米ドル/ユーロ	1.13	1.07

◆ セグメント別 売上高・営業利益比較 (対 前年実績)

(億円)	売上高				営業利益			
	15年度	16年度	差異	増減率	15年度	16年度	差異	増減率
高機能繊維・複合材料	1,330	1,368	+37	+2.8%	185	138	-47	-25.2%
電子材料・化成品	1,637	1,344	-293	-17.9%	223	185	-38	-17.1%
ヘルスケア	1,475	1,475	+0	+0.0%	288	276	-12	-4.3%
製品	2,709	2,596	-113	-4.2%	53	67	+14	+25.8%
計	7,152	6,783	-368	-5.2%	749	666	-83	-11.1%
その他	756	630	-126	-16.7%	65	54	-11	-17.2%
消去又は全社	—	—	—	—	-143	-155	-12	—
合計	7,907	7,413	-495	-6.3%	671	565	-106	-15.8%

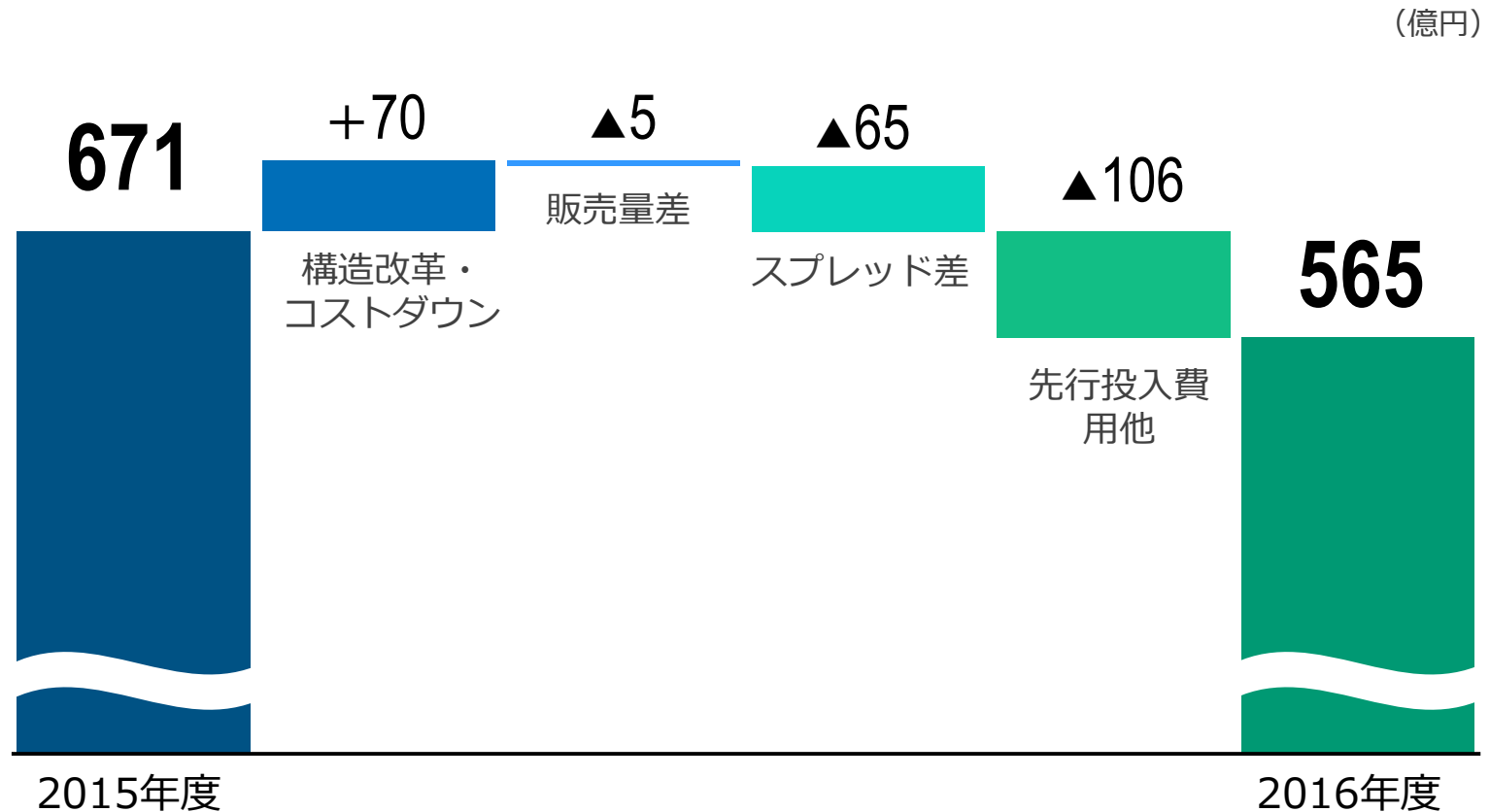
◆ セグメント別 売上高・営業利益比較（対 2月公表見通し*）

(億円)	売上高				営業利益			
	2月公表 見通し	実績	差異	増減率	2月公表 見通し	実績	差異	増減率
高機能繊維・複合材料	1,350	1,368	+18	+1.3%	145	138	-7	-4.5%
電子材料・化成品	1,350	1,344	-6	-0.4%	175	185	+10	+5.6%
ヘルスケア	1,450	1,475	+25	+1.7%	275	276	+1	+0.2%
製品	2,600	2,596	-4	-0.2%	60	67	+7	+11.7%
計	6,750	6,783	+33	+0.5%	655	666	+11	+1.7%
その他	650	630	-20	-3.1%	55	54	-1	-2.3%
消去又は全社	—	—	—	—	-150	-155	-5	—
合計	7,400	7,413	+13	+0.2%	560	565	+5	+0.9%

* 2017年2月6日第3四半期決算発表時公表

◆ 営業利益 増減分析

構造改革等によるコストダウン効果はあるが、
為替要因や薬価改定、新薬導入費用の影響等もあり減益



高機能繊維・複合材料事業

販売は堅調ながら、為替影響とアラミド繊維の定修要因等により減益

売上高

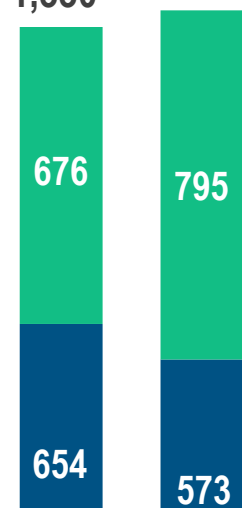
営業利益

	(億円)	15年度	16年度	差異	増減率
売上高		1,330	1,368	+37	+2.8%
営業利益		185	138	-47	-25.2%

+2.8%

1,330 → 1,368

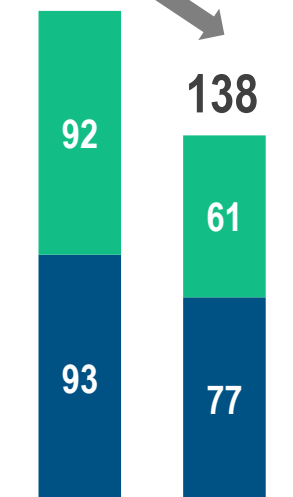
下期

15年度 16年度
(億円)

-25.2%

185 → 138

上期

15年度 16年度
(億円)

高機能繊維

- パラアラミド繊維：
 - ・ 欧州タイヤ向け等の自動車用途が順調に拡大
 - ・ 防弾用途や油田採掘関連用途は低調
- メタアラミド繊維：
 - ・ フィルター用途は激しい競合環境が継続
 - ・ 自動車関連、防護衣料、産業資材用途は堅調
- ポリエステル繊維：
 - ・ 自動車用途や水処理用膜向け等が堅調
 - ・ 国内生産体制再編とタイへの生産移管を推進

炭素繊維・複合材料

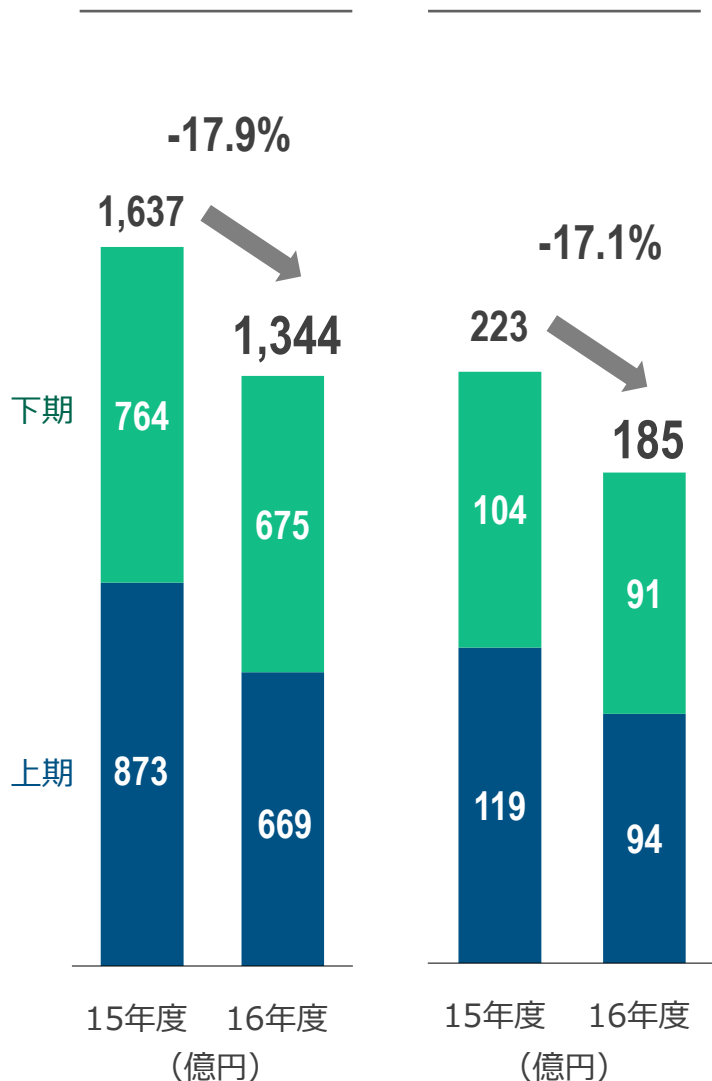
- ・ 航空機用途は順調に推移
- ・ 欧米の風力発電向け販売は堅調も、アジア向けスポーツ・レジャー用途や一般産業用途で需給バランス軟化

電子材料・化成品事業

汎用品ビジネスの縮小や為替影響により減収も
安定した利益率を維持

売上高

営業利益



	(億円)	15年度	16年度	差異	増減率
売上高		1,637	1,344	-293	-17.9%
営業利益		223	185	-38	-17.1%

樹脂

- PC樹脂：
 - ・ シンガポール工場停止による販売量の減少や、人民元安の影響を受けるも、販売構成の改善や、中国・日本工場の高稼働維持により収益安定
 - ・ 自動車市場への積極展開に加え、住宅設備等の成長分野向けや高機能繊維との複合材料販売を推進
- 機能樹脂：
 - ・ カメラレンズ用特殊PCの製品ラインナップを拡充

フィルム

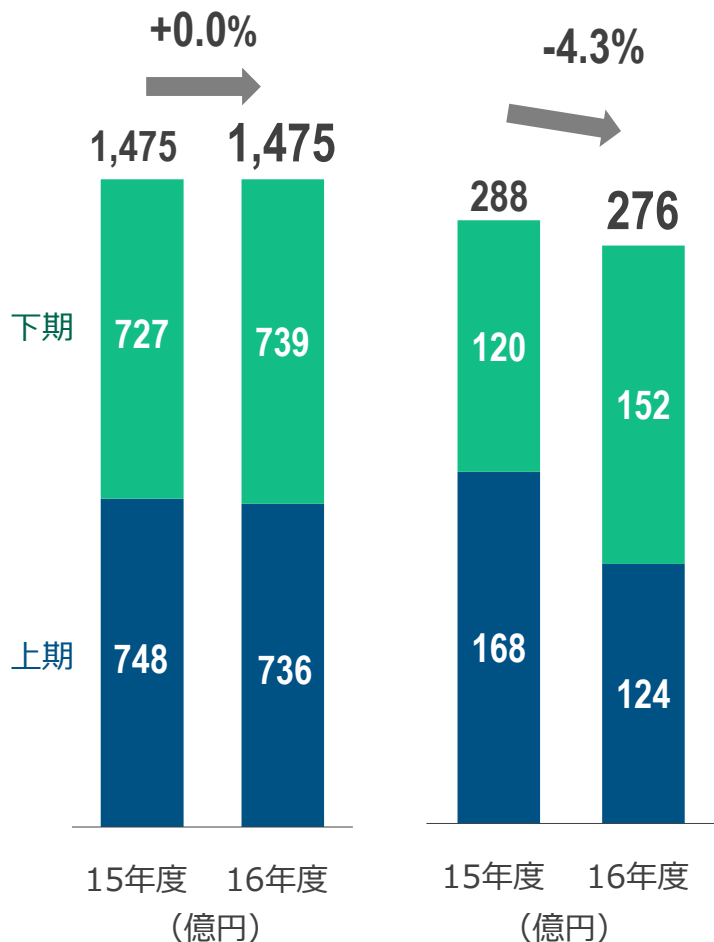
- ・ 工程用離型フィルムや特殊包装用途の輸出品、磁気用PENフィルムは比較的堅調に推移
- ・ 有機ELディスプレイ（OLED）向けに、逆波長分散フィルム等の販売を拡大
- ・ 岐阜工場を計画通り停止（2016年9月末）

ヘルスケア事業

主力製品・サービスの好調で薬価・診療報酬改定
影響や新薬導入費用を吸収

売上高

営業利益



(億円)	15年度	16年度	差異	増減率
売上高	1,475	1,475	+0	+0.0%
営業利益	288	276	-12	-4.3%

医薬品

- ・ 高尿酸血症・痛風治療剤フェブキソスタットや、先端巨大症治療剤「ソマチュリン*1」が順調に拡大
- ・ 骨粗鬆症治療剤「ボナロン*2」等の剤形追加品や、経皮吸収型鎮痛消炎剤「ロコア」の販売拡大に注力
- ・ 成長ホルモン剤の新規導入費用を計上 (2016年8月)

在宅医療

- ・ H O T : 高水準のレンタル台数を維持
- ・ C P A P : レンタル台数は着実に伸長
新機種 of 展開で更なる拡大を目指す
- ・ 厳しい事業環境にあった米国事業からの撤退を決定
2016年度で引当金等の特損を計上(2017年4月)
- ・ 多職種連携情報共有システム「バイタルリンク」の
販売を着実に拡大

*1 ソマチュリン®/Somatuline®は、Ipsen Pharma(仏)の登録商標です

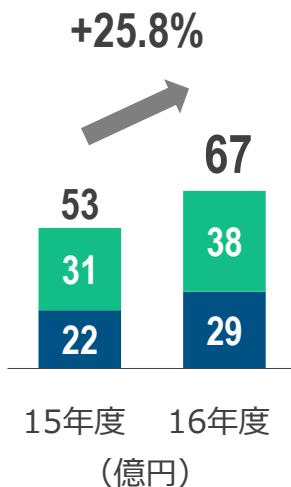
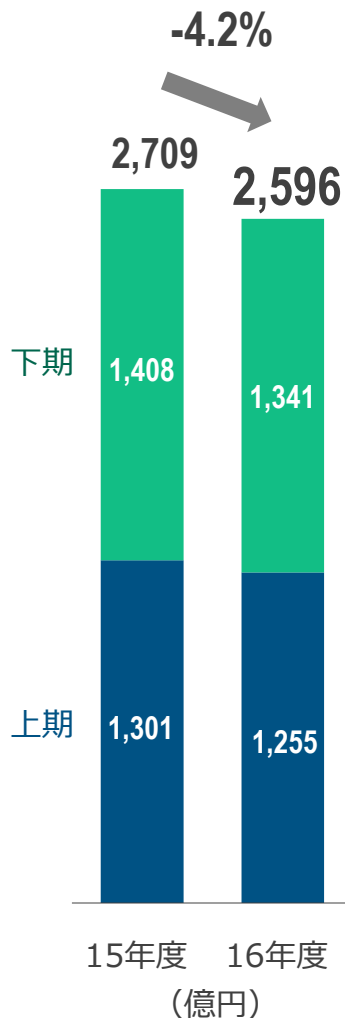
*2 ボナロン®/Bonalon® はMerck Sharp & Dohme Corp.(米)の登録商標です 11

製品事業

円高により売上微減ながら、生産体制の適正化やスポーツ・アウトドア向け販売の伸長により増益

売上高

営業利益



(億円)	15年度	16年度	差異	増減率
売上高	2,709	2,596	-113	-4.2%
営業利益	53	67	+14	+25.8%

衣料繊維

- ・円高の影響を受けるも、スポーツ・アウトドア向けの高機能素材が、欧米及び国内で伸長
- ・衣料用や、大手小売りチェーン向けのインテリア用の差別化糸販売が拡大
- ・衣料製品は厳しい市場環境が継続も、適地生産等の体質強化や、独自素材による差別化ビジネスを推進

産業資材

- ・自動車部材では、タイヤ補強材等が堅調推移、エアバッグ基布の拡大基調続くも、内装材等は苦戦
- ・土木資材等も好調、中国向け環境資材で商圈拡大
- ・生活資材はインテリア関連堅調、ヘルスケアビジネスも順調に拡大
- ・化成品関連は低迷も、年度後半には一部販売好転

2018年3月期 通期業績見通し

- ・ 全社方針
- ・ 連結業績見通し
- ・ 事業別戦略
- ・ 投入資源ほか

◆ 2017年度 短期運営方針

「中期経営計画2017-2019」のスタート年度

事業ポートフォリオ変革の実現に向けて、中期経営計画のシナリオに基づき具体的な戦略的アクションを着実に推進

成長戦略

既存事業の収益力維持・強化

- ・ 成長市場に向けた販売極大化 — 伸びる市場・用途の見極め
- ・ 収益構造の改善 — 生産効率の更なる向上・コスト構造改革

発展戦略

新規ビジネスの育成・拡大

- ・ マテリアル領域 — 複合成形材料事業の拡大
- ・ ヘルスケア領域 — 公的保険外分野を含む新規ビジネスの開拓
- ・ 共通 — I C T 技術を活用した新規ビジネスモデルの探索

経営システム基盤強化

- ・ 本社構造改革の推進 — ビジネススタイル変革、コスト構造見直し

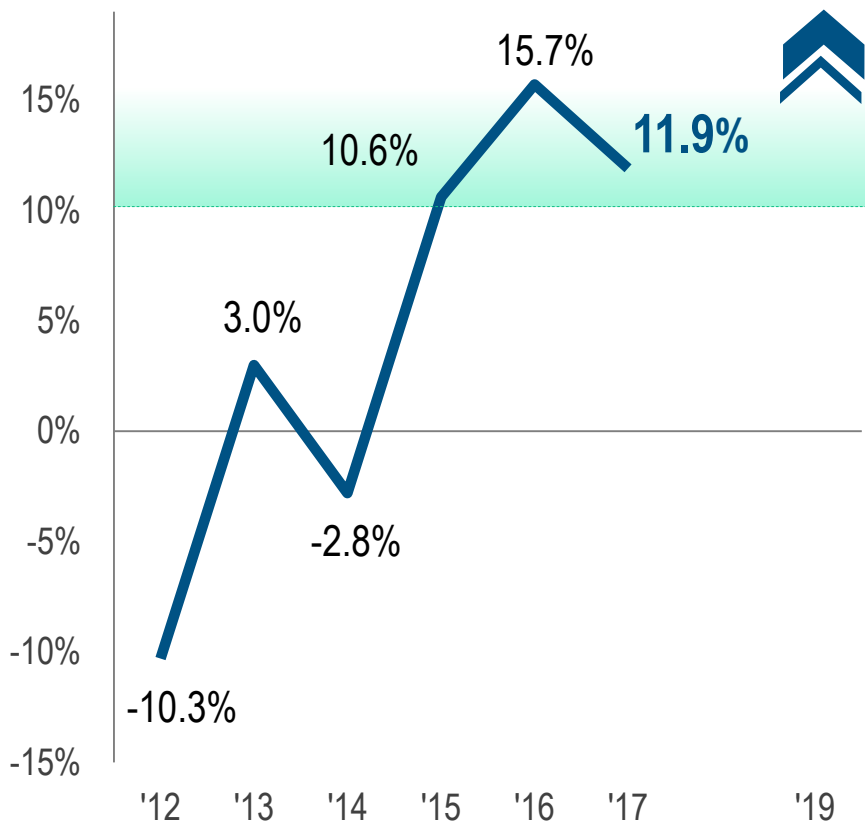
2018年3月期 通期業績見通し

- ・ 全社方針
- ・ 連結業績見通し
- ・ 事業別戦略
- ・ 投入資源ほか

◆ 業績指標推移

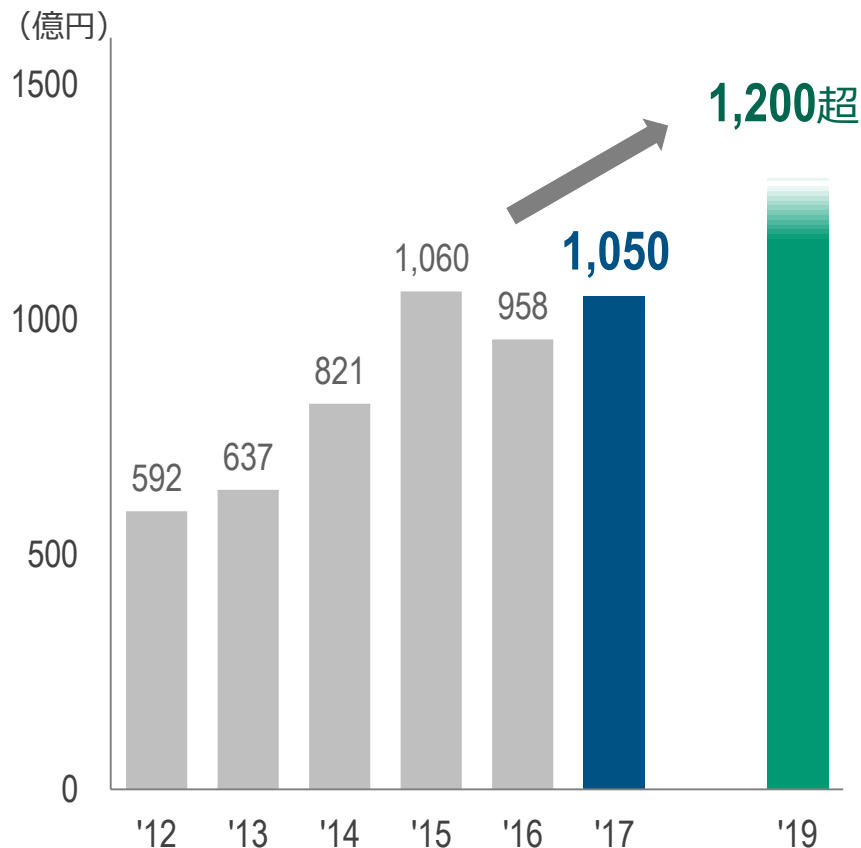
ROE*1

中期目標：10%以上



EBITDA*2

中期目標：1,200億円超(2019年度)



10%超の安定した株主利回りを維持

キャッシュ創出力を約10%拡大

*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本」にて算出

*2 「営業利益+減価償却費」にて算出

◆ 通期業績見通しの概況

(億円)	16年度 実績	17年度 見通し	差異	
			金額	%
売上高	7,413	8,550	+1,137	+15.3%
営業利益	565	620	+55	+9.7%
<営業利益率>	7.6%	7.3%	-0.4%	—
経常利益	559	630	+71	+12.6%
親会社株主に帰属 する当期純利益	501	420	-81	-16.2%
ROE	15.7%	11.9%	-3.8%	
営業利益ROIC	10.0%	9.8%	-0.3%	
EBITDA*1	958	1,050	+92	
設備投資*2	462	600	+138	
減価償却費	393	430	+37	
研究開発費	354	400	+46	
フリーキャッシュフロー	-486	80	+566	

前年度の税金減少等、特殊要因を除くと、増収増益を見込む

◇配当*3 (円/株)	16年度 実績	17年度 見通し
中間配当	25.0	30.0
期末配当	30.0	30.0
年間配当	55.0	60.0

2016年度：公表見通し対比 5円増配

◇前提条件		16年度 実績	17年度 見通し
通期為替 レート	円/米ドル	108	110
	円/ユーロ	119	116
原油価格 (Dubai)	米ドル/バレル	47	55

*1： EBITDA（営業利益＋減価償却費）にて算出

*2： 設備投資には無形固定資産を含む

*3： 株式併合後の株式数に対する支払い

◆ 構造改革の進捗

課題事業に対する抜本的改革は概ね完了

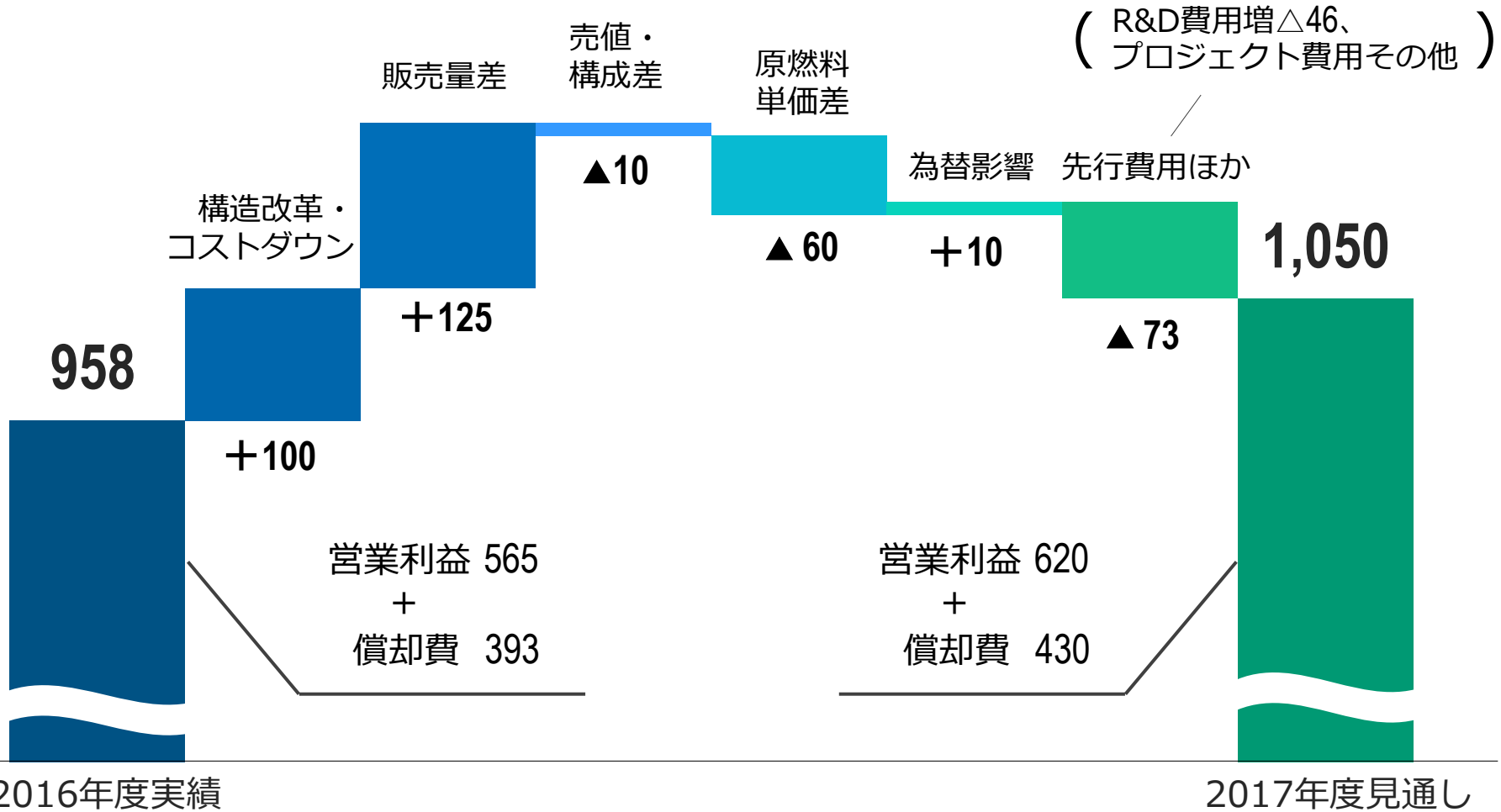
事業	2015年度	2016年度	2017年度
樹脂		✓ シンガポール工場撤収	高付加価値用途への特化
フィルム	宇都宮への生産移管	→ ✓ 国内生産一元化 ✓ 日本・インドネシア 完全子会社化	
米国在宅	運営効率化	→	✓ 米国事業からの撤退
ポリエステル繊維	タイへの段階的生産移管	→ 予定通り進捗	→ 国内工場の一部閉鎖・生産停止
原料重合	DMT生産停止 ✓	✓ ポリマー重合工場再編	

* 米国在宅医療事業からの撤退

✓ 完了

連結子会社(Braden Partners, L.P.、Associated Healthcare Systems, Inc.) の
当社所有持分全てを米国の投資会社Quadrant Management, Inc傘下の投資持ち株式会社に売却

◆ EBITDA増減内訳 (億円)



2018年3月期 通期業績見通し

- ・ 全社方針
- ・ 連結業績見通し
- ・ **事業別戦略**
- ・ 投入資源ほか

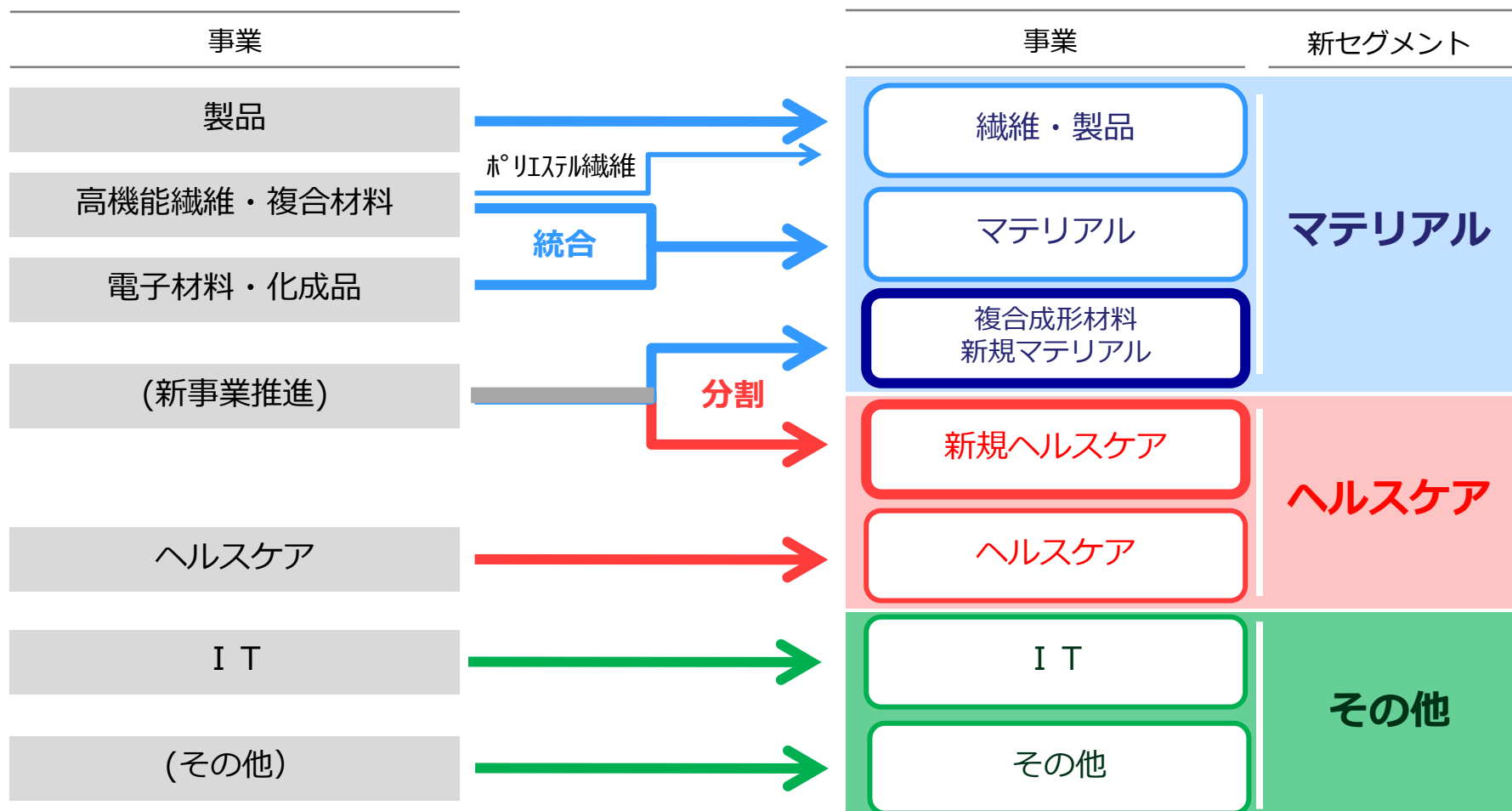
◆ 組織再編（開示セグメントの変更）

成長・発展戦略の加速を促す組織体への進化

- ・ 素材関連事業をマテリアルに統合し、事業間融合を図る
- ・ 新事業推進をマテリアル・ヘルスケアに分割、各事業で吸収し連携性を深める

～2016年度

2017年度～












◆ セグメント別 経営指標 (新セグメント)

セグメント	E B I T D A (億円)			営業利益 R O I C (%)		
	16年度 実績	17年度 見通し	差異	16年度 実績	17年度 見通し	差異
マテリアル	550	640	+90	9.7%	9.4%	-0.3%
ヘルスケア	375	400	+25	21.8%	22.3%	+0.5%
その他	67	70	+3	—	—	—
全社・消去	-34	-60	-26	—	—	—
連結合計	958	1,050	+92	10.0%	9.8%	-0.3%








◆ セグメント別 売上高・営業利益推移（新セグメント）

		16年度実績			17年度見通し			年間 差異
		上期	下期	年間	上期	下期	年間	
(億円)								
売上高	マテリアル	2,551	2,848	5,398	3,100	3,350	6,450	+1,052
	内、マテリアル事業	1,112	1,115	2,267	1,150	1,200	2,350	+83
	内、繊維・製品事業	1,397	1,490	2,887	1,550	1,750	3,300	+413
	内、複合成形材料事業他	43	202	245	400	400	800	+555
	ヘルスケア	750	756	1,507	750	750	1,500	-7
	その他	229	278	508	300	300	600	+92
合計		3,530	3,882	7,413	4,150	4,400	8,550	+1,137
営業利益	マテリアル	162	150	312	145	205	350	+38
	ヘルスケア	110	139	249	165	115	280	+31
	その他	19	33	52	20	30	50	-2
	消去又は全社	-21	-27	-47	-30	-30	-60	-13
	合計		270	295	565	300	320	620

◆ **成長戦略** : 既存事業の収益力維持・強化

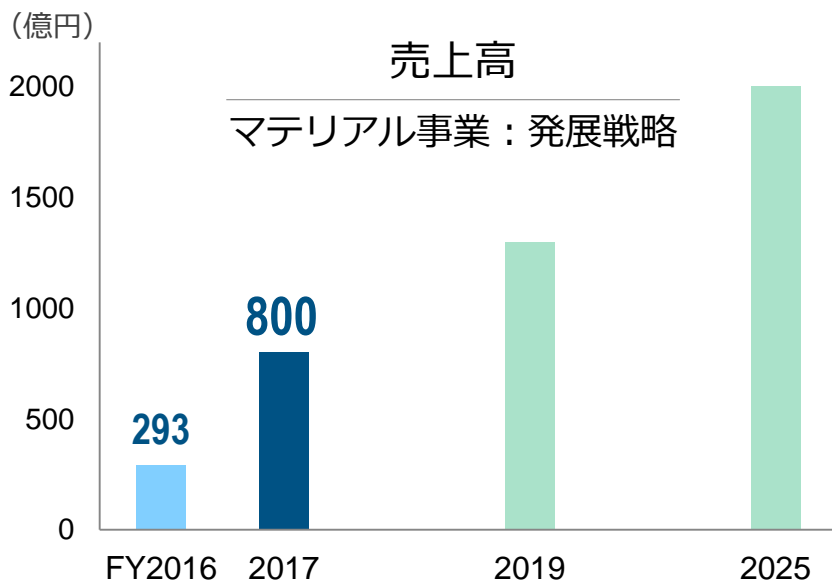
事業		主要施策・アクション
マテリアル事業	アラミド繊維 	<ul style="list-style-type: none"> 自動車用途(タイヤ・ゴム資材), インフラ用途(光ファイバー) 拡販注力 コスト競争力強化(プロセス自動化・多錐化による生産効率アップ) 
	炭素繊維 	<ul style="list-style-type: none"> 航空機向け販売の着実な拡大、インフラ・風力発電向け拡大対応 北米新工場建設の検討推進  <p>© AIRBUS</p>
	樹脂 	<ul style="list-style-type: none"> 更なる販売構成改善へ注力、利益率・参入障壁の高い領域へ特化 素材ラインナップ拡充(P P S 他) 重点用途拡大(自動車・防災インフラ) 
	フィルム 	<ul style="list-style-type: none"> 国内生産拠点集約効果の着実な発現 重点用途 (工程離型フィルム、工業用 P E N) 拡大注力 
繊維・製品事業		<ul style="list-style-type: none"> ポリエステル繊維事業との統合による一体運営強化 自動車関連部材の供給体制強化 

◆ **成長戦略** (続き)

事業		主要施策・アクション
ヘルスケア事業	医薬品 	<ul style="list-style-type: none"> ・ フェブキソスタット販売極大化、「ロコア」拡販 ・ 創薬パイプラインの価値最大化に向けた提携・アライアンスの積極推進 
	在宅医療 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存機器のシェア維持・拡大 (中小病院の開拓による採用拡大) ・ 多職種連携情報共有システム「バイタルリンク」の拡大展開 ・ 医療支援体制の強化、遠隔医療・増悪予兆等サポート領域拡大検討 
I T 事業		<ul style="list-style-type: none"> ・ 電子書籍事業の拡大 ・ ヘルスケア事業の強化、介護・地域包括ケア領域への事業展開 
共通		<ul style="list-style-type: none"> ・ 本社コスト構造改革の推進 (事業統合による営業効率向上、間接部門の合理化) ・ スマートプロジェクト推進 (データベース構築、業務デジタル化、スマートプラント化) ・ グローバル最適人員体制の構築、働き方改革への取り組み 

◆ **発展戦略** : 新規ビジネスの育成・拡大

事業		目標	アクション
マテリアル	複合成形材料	<ul style="list-style-type: none"> ・ C S P社事業拡大 ・ C F R P自動車向け展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規軽量材料「TCA Ultra Lite」展開拡大 ・ 熱可塑性CFRP : C S Pとのシナジー効果により事業展開加速
	LIBセパレータ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民生用途の販売拡大 ・ 車載用途への本格参入 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アジア顧客への販路拡大 ・ 顧客評価推進
	樹脂グレージング	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規コーティング技術事業展開推進 ・ C S P社とのシナジー効果発現



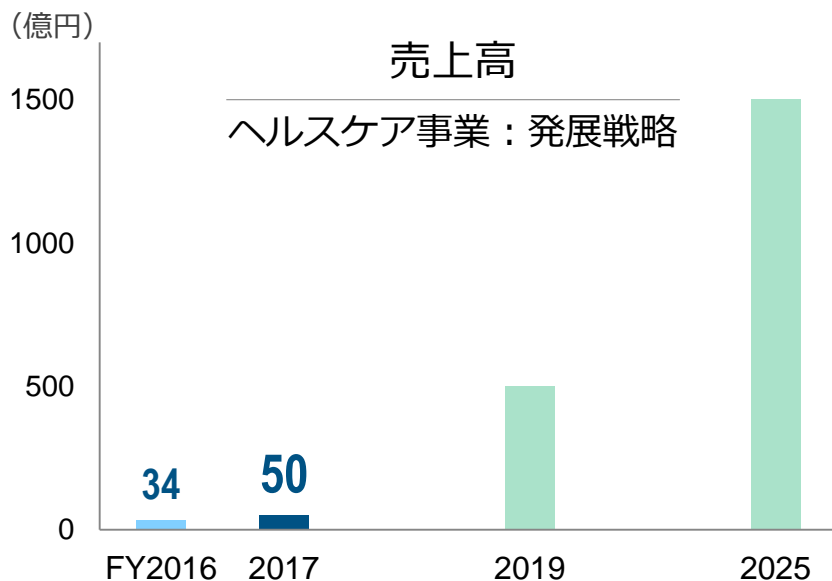
「TCA Ultra Lite」を使用した「コルベット」フェンダー



LIBセパレータ「LIERSPORT」

◆ 発展戦略 (続き)

事業		目標	アクション
ヘルスケア	埋め込み型医療機器	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国産メーカーとしての特徴を活かした事業展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生体吸収性骨接合材展開 (帝人メディカルテクノロジー(株)設立) ・ 製品ラインナップ・対象領域の拡大
	機能性食品	<ul style="list-style-type: none"> ・ スーパー大麦販売拡大 ・ 新規ラインナップ拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大手食品メーカーとの連携、採用拡大 ・ 新規スーパー穀物の導入検討
	新規医療機器 デジタルヘルスケア	<ul style="list-style-type: none"> ・ 領域の拡大 ・ ICT活用による事業展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規医療機器の導入検討 ・ “睡眠”から他領域への展開 ・ RFID棚管理システム「レコピック」病院展開を拡大



2018年3月期 通期業績見通し

- ・ 全社方針
- ・ 連結業績見通し
- ・ 事業別戦略
- ・ 投入資源ほか

◆ 投入資源

設備投資

設備投資 + M & A 枠 **3,000億円**

(2017-2019累計)

設備投資は**50%**以上を成長・発展戦略に投入

研究開発費

開発研究費

売上高 **5%**程度

発展戦略に関わる開発枠：**約30%**を確保

中期計画
資源投入方針

今年度計画

成長・発展戦略
約**50%**

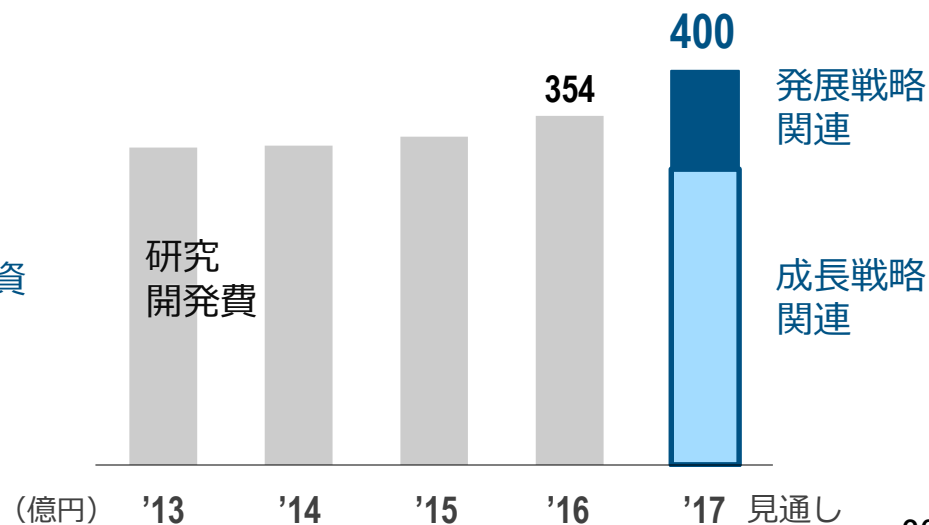
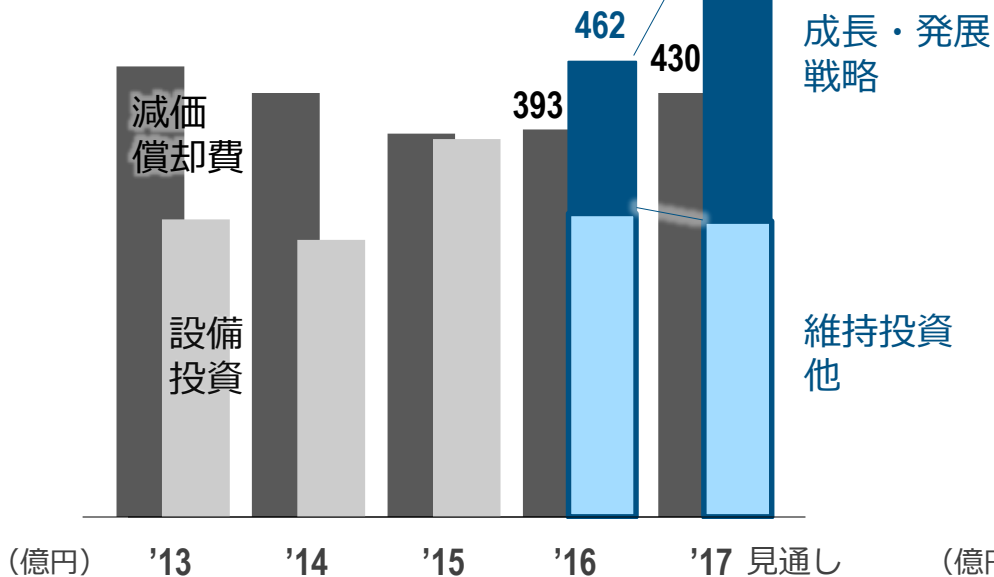
- ・複合成形材料
- ・炭素繊維能力増強
(北米新工場含む)
- ・電池部材ほか

発展戦略関連
約**25%**

- ・複合成形材料・電池部材
- ・新規ヘルスケア

成長戦略関連
約**75%**

- ・創薬開発フェーズ進捗
- ・マテリアル基盤技術強化



◆ 主要経営指標推移

	13年度 実績	14年度 実績	15年度 実績	16年度 実績	17年度 見通し
ROE* ¹	3.0%	-2.8%	10.6%	15.7%	11.9%
営業利益ROIC * ²	3.3%	6.9%	12.7%	10.0%	9.8%
EBITDA (億円) * ³	637	821	1,060	958	1,050
1株当たり当期純利益 (円) * ⁴	42.5	-41.1	158.1	254.9	213.6
1株当たり配当金 (円) * ⁴	20	20	35	55	60
総資産 (億円)	7,684	8,237	8,234	9,641	10,000
有利子負債 (億円)	2,815	3,082	3,033	3,762	3,800
D/Eレシオ * ⁵	1.00	1.07	1.01	1.11	1.0
自己資本比率	36.7%	34.9%	36.4%	35.1%	37.0%

*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本」にて算出

*2 「営業利益÷投下資本」にて算出

*投下資本 = 自己資本 + 非支配株主持分 + 有利子負債 - 現金および預金

*3 「営業利益 + 減価償却費」にて算出

*4 株式併合による株数の変化を反映したベースで記載

*5 「有利子負債÷自己資本」にて算出

見通しに関するご注意

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

事業等のリスク

業績等に影響を与える可能性のある重要な要因には、以下の事項があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

1. 競合・市況変動にかかるもの

帝人グループは市況製品を展開しており、景気動向、他社との競合に伴う市場価格の変動、購入原燃料の価格変動、また為替、金利といった相場の変動が事業業績に影響を及ぼす可能性があります。

2. 製品の品質にかかるもの

事業活動全般において品質保証を確保する体制を敷いていますが、製品・サービスの欠陥が業績、財務状況、社会的評価等に悪影響を及ぼす可能性があります。

3. 研究開発にかかるもの

研究開発に対し積極的に経営資源を投入していますが、特に医療用医薬品の開発には、多額の費用と長い期間がかかるうえ、創薬研究において、有用な化合物を発見できる可能性は決して高くありません。また、種々の要因により承認申請を断念しなければならない可能性があります。また、承認申請した後でも承認が取り消されることがあります。

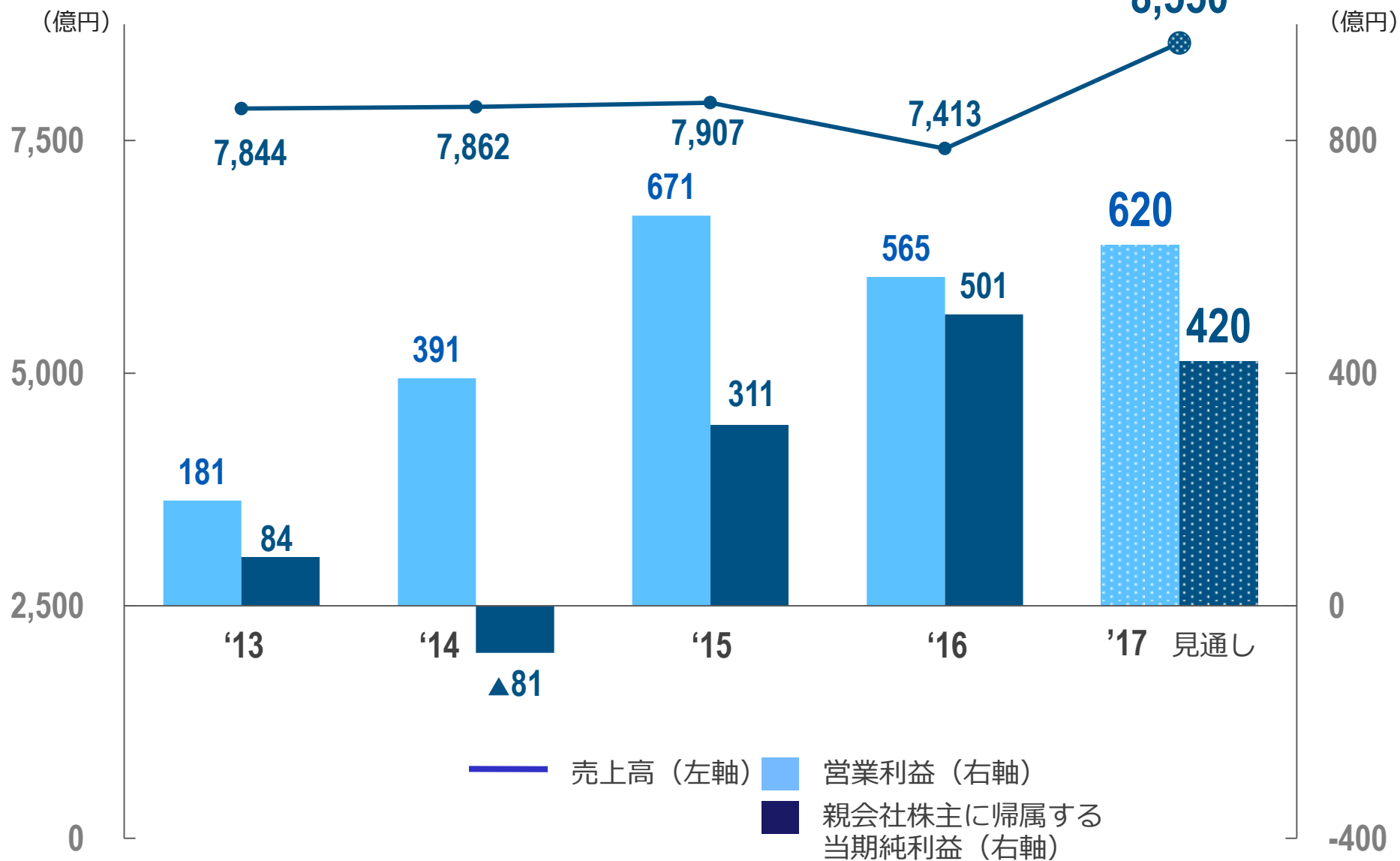
4. 海外活動にかかるもの

海外での活動について為替変動に係るリスクのほか、予期しない法律・規制の施行、不利な影響を及ぼす租税制度の変更、経済変動、政変・テロ・戦争等による社会的混乱により、経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

5. 事故・災害にかかるもの

大規模な自然災害や不慮の事故等により生産設備が損害を受けた場合や原材料の供給等サプライチェーンに大きな障害が生じた場合は帝人グループの経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

◆ 損益推移



◆ 連結貸借対照表

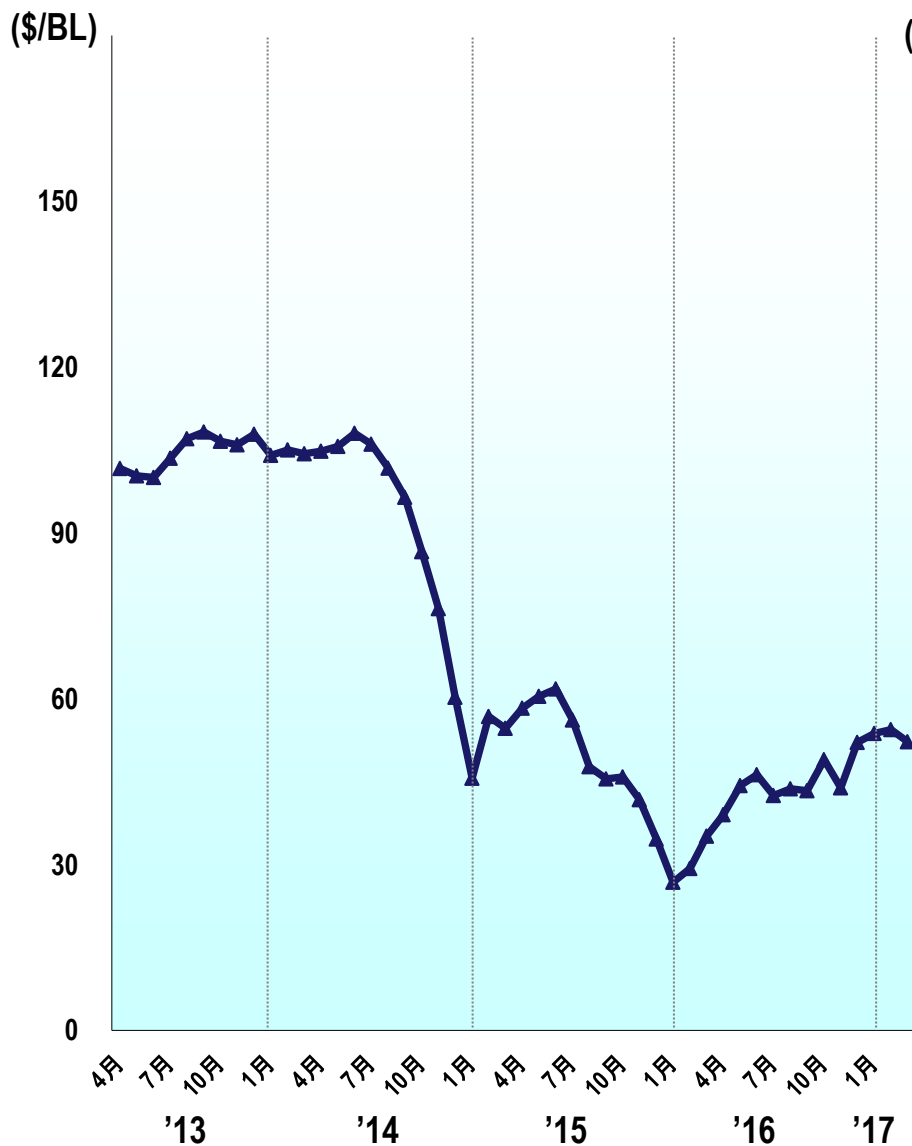
	(億円)	15年 6月末	15年 9月末	15年 12月末	16年 3月末	16年 6月末	16年 9月末	16年 12月末	17年 3月末
資産 合計		8,164	8,027	8,219	8,234	7,898	7,797	9,058	9,641
流動資産		3,956	3,956	4,150	4,305	4,137	4,036	5,096	4,668
固定資産		4,208	4,071	4,069	3,929	3,761	3,762	3,962	4,973
負債・純資産 合計		8,164	8,027	8,219	8,234	7,898	7,797	9,058	9,641
負債		4,963	4,838	4,918	5,090	4,855	4,632	5,515	6,122
(内 有利子負債)		2,943	2,836	2,811	3,033	2,978	2,762	3,437	3,762
純資産		3,202	3,190	3,301	3,144	3,043	3,165	3,543	3,518

* 詳細については決算短信をご覧ください

◆ 連結損益計算書

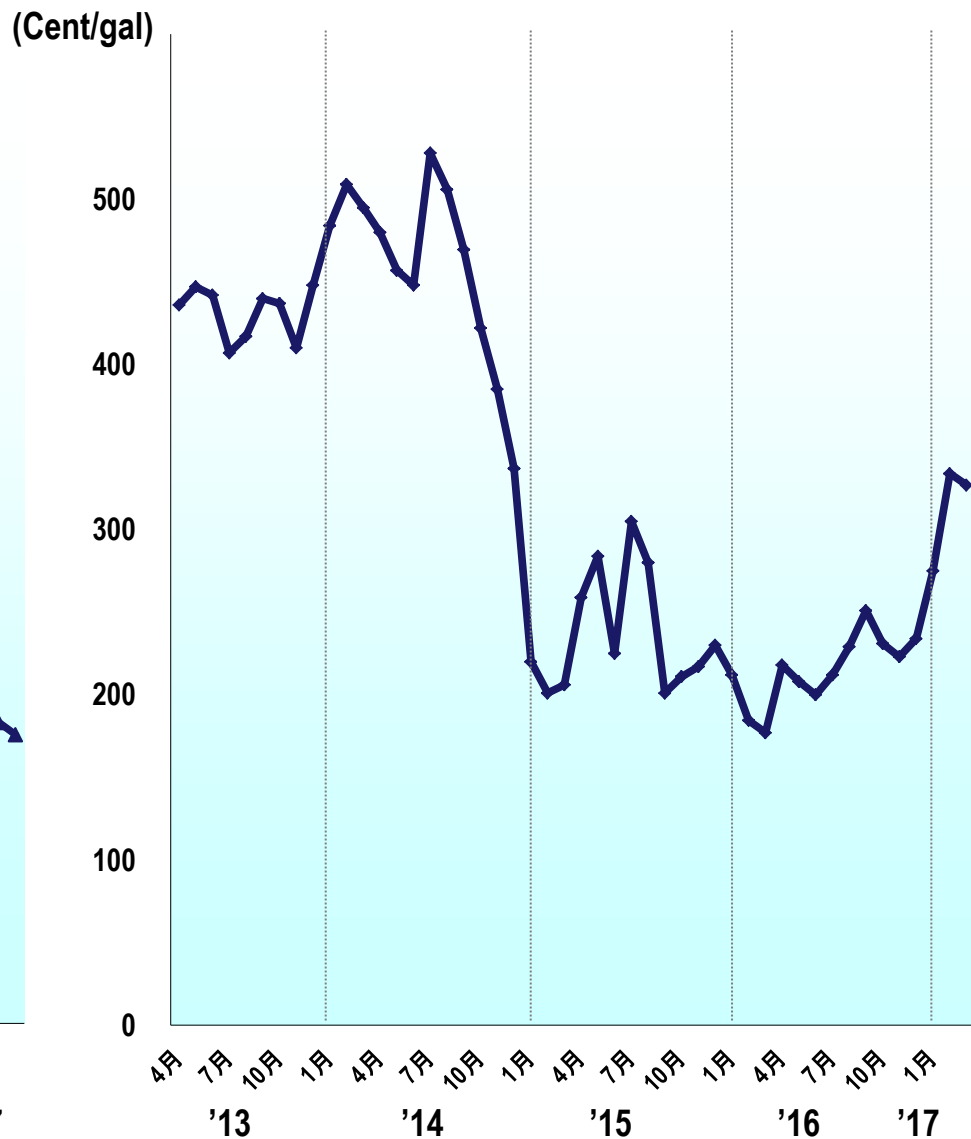
(億円)	15年度				16年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	1,926	1,995	1,992	1,995	1,742	1,788	1,821	2,061
売上原価	1,308	1,345	1,340	1,370	1,131	1,182	1,196	1,420
売上総利益	617	650	653	624	612	606	625	641
販管費	453	461	451	508	455	493	459	512
営業利益	164	189	201	116	157	113	166	129
営業外損益	16	-11	8	-81	-13	10	25	-27
(内 金融収支)	5	-5	1	-3	7	-3	2	-3
(内 持分法投資損益)	9	11	5	-55	8	17	-2	-3
経常利益	180	179	210	35	144	123	191	102
特別損益	-13	-16	-78	-41	-6	-22	-15	-176
税金等調整前 四半期純利益	167	163	132	-6	138	100	176	-75
法人税等	55	35	43	31	22	-2	46	-241
非支配株主に帰属する 四半期純利益	0	-4	-16	1	1	3	3	6
親会社株主に帰属する 四半期純利益	112	133	105	-38	114	99	127	161

◆ ドバイ原油価格推移



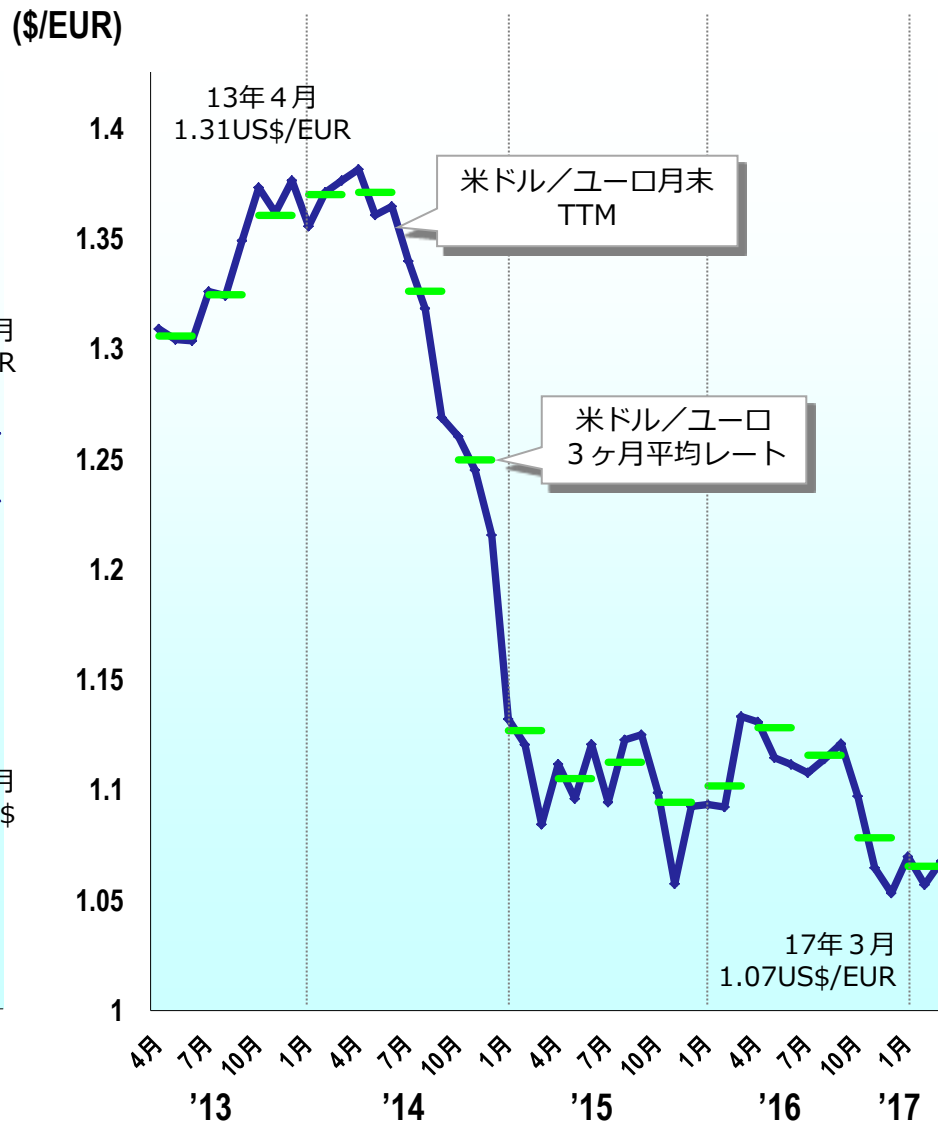
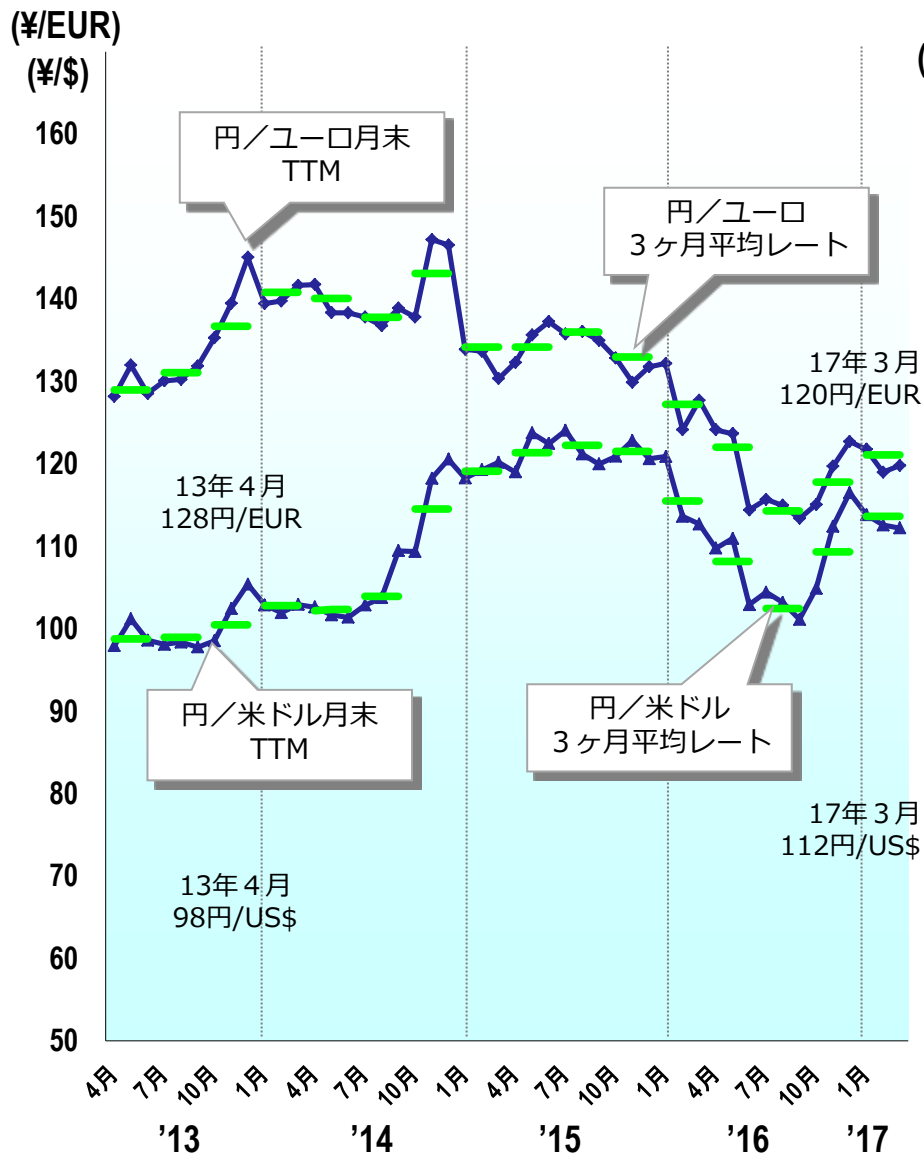
【出所：Platt's社のDATAを基に弊社推定】

◆ ベンゼン価格推移



【出所：BZ DewittのDATAを基に弊社推定】

◆ 円/米ドル、円/ユーロ為替レート推移



◆ 主要医薬品 売上高実績推移

(億円)

品名	薬効	15年度					16年度				
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q	3Q	4Q	計
ボナロン®*1	骨粗鬆症治療剤	33	33	35	28	129	31	28	31	25	116
ワンアルファ®	骨粗鬆症治療剤	13	13	13	10	49	10	9	10	8	37
骨粗鬆症治療剤 計		46	46	49	38	178	41	38	41	33	153
フェブリク®	高尿酸血症・痛風治療剤	48	52	60	53	213	64	64	75	63	265
ムコソルバン®	去痰剤	18	14	20	15	67	14	13	17	13	58
ベニロン®	重症感染症治療剤	25	0	13	6	44	10	12	14	11	47
ラキソベロン®	緩下剤	7	7	7	5	25	5	5	5	4	20
ソマチュリン®*2	先端巨大症・ 下垂体性巨人症治療剤	3	4	4	4	15	4	4	5	4	17
トライコア®	高脂血症治療剤	4	4	4	4	16	4	4	4	4	15
オルベスコ®	喘息治療剤	3	3	3	3	12	3	3	3	3	12

*1ボナロン®/Bonalon® はMerck Sharp & Dohme Corp. (米)の登録商標です。

*2ソマチュリン®/Somatuline® は Ipsen Pharma (仏) の登録商標です。

◆ 疾患分野別臨床開発段階 (2017年3月末現在)

	臨床開発段階			* 承認/新規上市は直近1年間を記載	
	Phase I	Phase II	Phase III	申請	承認/ 新規上市
骨・関節 領域		KTP-001	ITM-058*5		
呼吸器 領域		PTR-36			
代謝・ 循環器 領域	TMX-049DN*3	TMX-049*6 TMG-123*7	STM-279 VRS-317*4	TMX-67 [フェブキソスタット] (中国) ITM-014N [ソマチュリン®] (効能・効果追加: 神経内分泌腫瘍)*2	TMX-67TLS [フェブリク] (効能・効果追加: 腫瘍崩壊症候群)*1
その他			GGs-ON, -MPA, -CIDP [ベニロン] (効能・効果追加①視神経炎<ON> (効能・効果追加②顕微鏡的多発 血管炎<MPA>) (効能・効果追加③:慢性炎症性 脱髄性多発根神経炎<CIDP>)		

*1 フェブリクの腫瘍崩壊症候群への効能・効果拡大として開発中のTMX-67TLSは、2016年5月「がん化学療法に伴う高尿酸血症」に対する効能・効果追加の承認を取得。 *2 ソマチュリンの神経内分泌腫瘍への効能・効果拡大として開発中のITM-014Nは、2016年7月独立行政法人・医薬品医療機器総合機構に承認申請を実施。 *3 2016年7月2型糖尿病における新規糖尿病性腎症治療薬としてTMX-049DNの臨床開発(英国、Ph1)に着手。 *4 2016年8月米ヴェルサーティス社が創製した新規長期作用型成長ホルモン剤VRS-317の日本における独占的開発・販売契約を締結。 *5 2017年2月新規骨粗鬆症治療薬として開発中のITM-058は国内でPh3試験に着手。 *6 2017年3月新規高尿酸血症・痛風治療薬TMX-049のPh2試験に着手。 *7 2017年3月新規2型糖尿病治療薬TMG-123のPh2試験に着手

◆ 新規開発医薬品 (2017年3月末現在)

【承認取得】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
TMX-67TLS (フェブキソスタット)	腫瘍崩壊症候群	本剤の強力な尿酸生成抑制作用により、1日1回の投与で、悪性腫瘍に対する化学療法に伴う高尿酸血症の発症を抑制することが期待される。	錠剤	自社開発品 (効能・効果追加) 2016年5月「がん化学療法に伴う高尿酸血症」に対する承認を取得

【承認申請】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
TMX-67 (フェブキソスタット)	高尿酸血症・ 痛風	国内販売しているフェブリク錠を中国に導出する。本剤は、強力な尿酸生成抑制効果に加え、腎機能低下等により既存治療薬を使うことのできなかった患者へも使用が可能であり、中国における高尿酸血症・痛風治療の新たな選択肢として、高尿酸血症・痛風患者のQOL (Quality of Life) 向上に貢献できることが期待される。	錠剤	共同開発： アステラス製薬 (中国) 有限公司 2015年11月承認申請
ITM-014N (ランレオチド酢酸塩)	神経内分泌腫瘍	ソマトスタチン受容体を介したアポトーシスの誘導 (直接的作用) や細胞栄養因子の分泌制御 (間接的作用) を介した作用により、神経内分泌腫瘍の進展抑制や諸症状の改善が期待される。	注射	導入： 仏イプセン社 (効能・効果追加) 2016年7月承認申請

◆ 新規開発医薬品 (2017年3月末現在)

【Phase III】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
GGG-ON (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	視神経炎	本剤の免疫調節作用により、視神経の炎症を抑制し、視機能を改善することが期待される。	注射	共同開発：化血研 (効能・効果追加)
GGG-MPA (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	顕微鏡的多発血管炎	本剤の抗炎症作用と免疫調節作用により、自己免疫性血管炎を鎮静化させ、標準治療で残存する神経障害(多発性単神経炎)を改善することが期待される。	注射	共同開発：化血研 (効能・効果追加)
GGG-CIDP (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	慢性炎症性脱髄性多発根神経炎	本剤の免疫調節作用により、末梢神経の炎症を抑制し、低下した筋力を改善することが期待される。	注射	共同開発：化血研 (効能・効果追加)
STM-279	ADA (アデノシン・デアミンナーゼ) 欠損症	本剤 (ポリエチレングリコール修飾遺伝子組換えウシADA類縁体) は、ADA欠損症患者にADAを補充することで、リンパ球の減少を抑える注射剤であり、重症複合免疫不全症 (SCID) の発症を回避することが期待される。	注射	導入： 英シグマタウ社
VRS-317	小児・成長ホルモン分泌不全性低身長症	ポリペプチドを融合し、長期作用性を有する組換えヒト成長ホルモン。ヴェルサーティス社による米国Ph2試験において、毎日注射する必要のある既存製剤と同様の効果を月2回の注射で得られることが示されている。	注射	導入： 米ヴェルサーティス社 Ph-2/3試験の第3相期を実施中
ITM-058	骨粗鬆症	強力な骨形成作用により短期間で骨密度増加と骨折抑制効果が期待できる骨粗鬆症治療薬。既存薬に比べ、強い骨密度増加作用と安全性 (高カルシウム血症のリスク低減) が期待できる。	注射	導入： 仏イプセン社

◆ 新規開発医薬品 (2017年3月末現在)

【Phase II】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
KTP-001	腰椎椎間板ヘルニア	腰椎椎間板ヘルニアに対する化学的髄核融解療法剤。 生体内でヘルニアの自然退縮に関わる酵素 (マトリックスメタロプロテアーゼ) と同じ構造のヒト型タンパク質であることからアレルギー反応のリスクが少なく、選択的に作用するため、椎間板周囲組織の傷害性が低いと期待される。手術に代わる低侵襲性の治療法の選択肢を広げることができる。	注射	発明者： 波呂浩孝氏、 小森博達氏 共同開発：化血研
PTR-36	気管支喘息	新規作用機序 (CRTh2拮抗作用) によって喘息症状をコントロールする長期管理薬。 単剤による吸入ステロイドと同等の治療効果 (軽症患者) や吸入ステロイドとの併用による十分な治療効果 (軽症～重症の患者) が期待される。	錠剤	導入： 英プルマジェン・セラピューティクス (アズマ) リミテッド社
TMG-123	2型糖尿病	新規作用機序 (肝優位型GK活性化作用) による血糖コントロール薬。 血糖コントロールが不十分な患者で有効性が期待されるほか、高い利便性 (1日1回投与、腎機能低下患者で用量調節の必要性低い、薬物相互作用の懸念が少ない等) が期待される。	錠剤	自社開発品
TMX-049	高尿酸血症・痛風	非プリン型キサンチンオキシダーゼ阻害薬。新規高尿酸血症治療薬として、有効性と安全性に優れることが期待される。	錠剤	自社開発品

◆ 新規開発医薬品 (2017年3月末現在)

【Phase I】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
TMX-049DN	2型糖尿病における糖尿病性腎症	非プリン型キサンチンオキシダーゼ阻害薬。新規糖尿病性腎症治療薬として、腎症の進展抑制が期待される。	錠剤	自社開発品

◆ 導入品目の状況 (直近3年間を記載)

導入契約	導入元	内 容
2015年3月	大正製薬(株)	変形性関節症の鎮痛・消炎を適応症とした、エスフルルビプロフェン含有消炎鎮痛貼付剤TT-063の国内における販売権許諾契約を締結 (2015年9月 : 大正製薬(株)が製造販売承認を取得) (2016年1月 : 「ロコア」として大正富山医薬品(株)と共同販売を開始)

TEIJIN

Human Chemistry, Human Solutions

Human Chemistry, Human Solutions

テイジンブランドの約束を“Human Chemistry, Human Solutions”と表現します。

この約束は、「人と地球環境に配慮した化学技術の向上と、社会と顧客が期待している解決策を提供することで本当の価値を実現することに挑戦し続けること」を意味しています。

私たちはこの約束を確実に成し遂げ、企業理念であるQuality of Lifeの向上に努め、社会と顧客から信頼される企業グループであり続けます。